

5. 学生スタッフのボランティア企画・広報企画

ボランティア・NPO活動センターでは、地域の様々な団体や行政と連携し、学生の学びだけでなく地域貢献にもつながる活動に取り組んでいます。ボランティアに関心はあるけれども参加経験が少ない学生達へ向けては、地域とつながるきっかけとなるような体験企画を学生スタッフを中心となって提供しています。そして、学生スタッフ自身も、地域の団体や行政からの協力依頼に対し積極的に関わり、ボランティア活動の裾野を広げるように心がけています。

また、学内においても、ボランティアや社会課題を広く学生に知ってもらうための広報や啓発活動を学生スタッフが主体となって取り組んでいます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、地域でのイベントなども中止となり、これまで通りの関わりができなくなりました。そのような中、学生スタッフは今何ができるかを考え、SNSを活用した情報発信や展示などを行いました。

事業名	ボラセンついでと大作戦～ボラセンスタッフ's stay home life～
実施期間・発信回数	2020年5月11日(月)～2021年3月31日(水)
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
企画メンバー	深草・瀬田の学生スタッフおよびコーディネーター

1. 経緯・目的

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による学生の入構禁止および課外活動の中止(自粛)期間でも、ボランティア・NPO活動センター(以下、センター)ができることとして、以下の点を目的に実施しました。

- ①学生スタッフが頻繁にメッセージなどを発信することで、活動再開時に本学学生がスムーズにセンターを利用してもらえることを目指す。
- ②この状況下における学生スタッフの役割を創出し、スタッフ自身のモチベーション、センターの帰属意識を維持する。
- ③後期以降の新スタッフ勧誘に繋げる。
- ④学内外にセンターの動き、取り組みを発信する。

2. 概要

学生スタッフがツイート内容を考えて各キャンパスのコーディネーターへ提出し、公式Twitterへアップするという流れで取り組みました。ツイート発信の他に質問箱も設置し、センターや学生スタッフに関する質問も受け付けました。

○発信日:

以下を原則とし、その時々で臨機応変に発信しました。

月・木…深草学生スタッフのツイート
火・金…瀬田学生スタッフのツイート

水…コーディネーターのツイート

○発信内容:計469ツイート(年間は482ツイート)

- ・ボランティアの魅力ややりがい、学生スタッフのボランティア体験談
- ・学生スタッフのおススメボランティアや、センターに届いた地域団体からのボランティア情報
- ・ボランティアに関する豆知識や社会課題についての情報
- ・学生スタッフの日常の様子やガイダンス動画、学生スタッフ活動を通して感じたことや成長できたことなど
- ・センターの利用方法、センター事業の紹介・参加者募集など
- ・センター事業実施中のリアルタイムな進捗報告

○質問箱:計20件

主に学生スタッフの活動に関する質問とボランティアプログラムに関する質問が中心で、それぞれに対応しました。

3. 得られた効果など

- ・トータルインプレッション数1,226,936という結果が得られ、部署アカウントとしてはかなり積極的な発信ができました。
- ・5月に取り組み始めてから、3月までで200フォロワー以上増加しました。

- ・動画を撮影して発信するなど、新たな広報のやり方にチャレンジするきっかけとなりました。
- ・学生スタッフ企画『防災意識高め隊』(P.63～64 参照)に繋げるきっかけになったり、従来取り組んでいた学生スタッフ企画『大津祭ボランティア』(P.65～66 参照)において、コロナ禍でもできる新たな活動の形にチャレンジする場になったりしました。



4. 学んだこと・今後の課題

SNSでの情報発信はもともと学生スタッフの発案で2014年度に始まった取り組みで、学生スタッフとの協働を掲げるセンターの運営方針もあり、当時から公式アカウントのみでの発信となっています。

このことから、ついでと大作戦でも学生スタッフが原稿を提出した段階でコーディネーターが表現を再検討することがありましたが、SNSを使った情報発信が学生スタッフのより自発的な活動となるためには、言葉や文章に対して彼ら自身が深く考えることが必要だと感じます。

様々なSNSが生まれ多様化している昨今、学生スタッフが本当に伝えたいこと、発信したい情報があるなら、公式アカウント以外に学生スタッフのアカウントと発信のためのガイドラインを設けて、その範囲で自由に運用することも一案かもしれません。そして、学生スタッフだけでなく私たちコーディネーターも、受け手側がどのような情報を欲しているのか、効果的な情報の届け方、印象に残る伝え方や言葉は何かという根本を忘れないでいることが肝要だと思っています。

〈報告者：ヒギンズ尚美

(深草キャンパスコーディネーター)〉

事業名	みんなの防災意識高め隊
日時	2020年11月4日(水)～2021年3月12日(金)
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
企画メンバー	学生スタッフ：井上 沙雪(社会4) 正中 菜帆(社会4) 村田 大河(社会4) 川村 有希(政策4) 杉山 わかな(社会2) ※協力メンバー(一般学生)：朝倉 勇人(社会4) 大橋 寛海(社会4)

1. 経緯・目的

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、ボランティアなどを例年通りに行うことができない状況である。そういった状況には関係なく令和2年7月豪雨などの災害が起こった。これから先、予測できない災害が起こるかもしれない中で、今私たち大学生にできることとは何だろうかと有志の企画メンバーで話し合った。

今回の企画では、企画メンバーそれぞれの視

点から、防災や減災についての知識をSNSを通して発信し、情報を閲覧した方々にとって少しでも知識や学びになるように働きかけていくことで、実際に災害が起こったときに自発的に行動できるきっかけにつなげていく。

2. 概要

Twitterを発信手段として、防災や減災についての知識や、阪神淡路大震災、東日本大震災の教訓などについて、情報発信を行った。

○発信期間

2020 年 11 月 4 日～2021 年 3 月 12 日(計 30 回)

○投稿内容(内訳)

企画説明	①～③
防災や減災知識	④～⑫、⑮、⑰
阪神淡路大震災について	⑬、⑭、⑯
東日本大震災について	⑱～⑳
全体総括	㉑

3. 得られた効果など

- ・週 1 回から 2 回投稿することで、これまで企画メンバーが得てきた知識を発信することができた。
- ・防災に関する知識を学ぶことができた。
- ・大学生としてコロナ禍に何ができるのかということについて、Twitter を通して防災や減災について発信することにより、直接的なかかわりではなくてもできると実感した。

インプレッション数(合計 48,220)

(ユーザーが Twitter でこのツイートを見た数)

①	1,699	⑪	1,003	㉑	1,439
②	1,607	⑫	899	㉒	1,140
③	5,118	⑬	949	㉓	1,001
④	1,291	⑭	1,054	㉔	902
⑤	1,193	⑮	769	㉕	1,503
⑥	5,735	⑯	3,954	㉖	1,166
⑦	1,125	⑰	1,156	㉗	794
⑧	1,766	⑱	4,285	㉘	626
⑨	1,443	㉑	1,302	㉙	762
⑩	1,102	㉒	814	㉚	623

【Twitter を閲覧した学生スタッフより】

- ・様々な事態を想定して行動し、自分や周りの命を守るということについて、発信を閲覧する中で考えるきっかけになった。
- ・短い文章で発信していたため、大切なことがインプットされやすかった。
- ・防災に関する情報がクイズ形式のものであると、理解がより深めやすかったのではないかな。
- ・知識や体験談など、情報に統一感がなかったため、分けたほうが見やすいのではないかな。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・Twitter の文字数に制限があるため、文章をまとめることが難しかったが、これを機にまとめる力が身についた。
- ・一定数の「いいね」は得られたが、ツイートに画像があるか否かで反応に差異がある

ことが分かった。また、学生の活動風景などの画像の種類によっても反応に差異があることも分かった。

- ・伝えたい文章と合致する画像がない場合でも、関連画像や独自で画像を作成する必要がある。
- ・2月に行われた東日本大震災復興支援フォーラムと、もう少し連動したツイートもできたらよかった。
- ・企画メンバーの大半が 4 回生で、多忙なこともあり投稿する人に偏りが出ていた。最初から担当を決めるなど対策が必要である。
- ・今回は Twitter のみで発信しており、多くの方々に情報を拡散するということは難しかった。それぞれに情報を選べる中で、いかに大切な情報を伝えていくかということにさらに工夫が必要であると痛感した。

〈報告者：正中 菜帆〉



事業名	大津祭ボランティア～コロナだから今できること～（継続企画 15 年目）
日時	① 2020 年 12 月 18 日（金）～ 2021 年 3 月 25 日（木） Twitter 投稿 ② 2021 年 1 月 7 日（木）～ 1 月 28 日（木） エキジビション展示
場所	① ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）／大津祭曳山展示館 ② 龍谷大学 学生交流会館（瀬田）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
企画メンバー	赤木 宏斗（社会 3） 土肥 亮太（社会 3） 朝野 健太（社会 2） 吉岡 秀太（社会 2）

1. 経緯・目的

2020 年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により大津祭が開催されなかったため、例年募集があるボランティアに本学学生が参加する機会がなくなった。よって今回、大津祭について紹介することで、次年度以降のボランティア参加人数の向上につなげる。

2. 概要

① Twitter 投稿

期間中毎週木曜日に大津祭の伝統や歴史について投稿し、多くの人たちに知ってもらう活動を行った。

例えば 2 月 25 日の投稿では、大津祭の特徴の一つである厄除けちまきについての情報などを投稿した。また NPO 法人大津祭曳山連盟事務局の山口氏から大津祭の魅力や歴史についてお話を伺い、そのインタビュー動画を 3 月 25 日に投稿した。

② エキジビション展示

模造紙を使って大津祭ボランティアについての紹介記事を作り、学生交流会館に展示することによって、大津祭に興味・関心をもってもらおう目的で実施した。

投稿日	投稿内容	インプレッション数
12 月 18 日	大津祭企画について①	1,270
12 月 24 日	大津祭企画について②	1,287
1 月 7 日	大津祭ボランティアの魅力①	1,247
1 月 8 日	大津祭展示スタート！	1,273
1 月 16 日	大津祭ボランティアの魅力②	1,573
1 月 21 日	大津祭ボランティアの魅力③	1,270
1 月 28 日	大津祭の魅力	1,423
2 月 4 日	大津祭の特徴	1,759
2 月 25 日	大津祭のちまき	1,128
3 月 4 日	天孫神社について	1,080
3 月 11 日	大津祭の歴史	1,245
3 月 18 日	大津祭の曳山紹介	1,621
3 月 25 日	大津祭の今と昔（動画投稿）	2,162
3 月 25 日	大津祭企画 締め投稿	1,376
	合 計	19,714

2021/4/21 現在

3. 参加者の声・得られた効果など

この表は①の投稿日と投稿内容、インプレッション数を計測したものである。インプレッション数は企画書で目標にした 1000 回以上を上回っているものが多かったが、動画の視聴回数は企画書で掲げた 100 回以上とは程遠い一桁台だったので、掲げた目標が高かったということもあるが、更なる拡散努力も必要だったのではないかと感じた。今後目標設定する数字や動画の視聴回数を上げる方法などを、再度企画メンバーを中心に検討する必要がある。

2021 年度に大津祭が開催された際のボランティア参加人数が 2019 年度の参加人数（42 人）を上回ることを目標として実施しているため、今年度の活動の効果については、2021 年度に再度検証したい。



4. 学んだこと・今後の課題

① Twitter 投稿

- ・投稿順や投稿内容について、企画メンバー間で共有方法を明確に定めておらず、スムーズに投稿する事ができなかった時があった。もっと企画メンバー間で協議し、投稿時の情報共有を徹底していきたい。

② エキジビション展示

- ・エキジビション展示に使用した用紙に対し

て、文字が小さく少し読みづらかったので、次回は大きさなどをよく検討して製作に取り組みたい。

- ・昨年度参加した学生の声などを盛り込みたかったが、時間の余裕をもって展示物を作ることができず、断念した。さらに、展示開始日に向けての準備も慌ただしくなってしまうので、工夫した内容の展示にするためにも、申請を行う時期などを入念に確認し、計画的に準備を行う必要がある。



③全般

- ・広報活動を通して、大津祭の歴史や文化など改めて知ることができた。得られた知識を広く伝え、より多くの学生に大津祭に関心を持ってもらうことに繋げていきたい。
- ・コロナ禍だからこそできる広報活動などを企画メンバーで考えて実行に移せたことも、今後の企画に生かしていきたい。
- ・Twitter投稿やエキジビション展示以外にも、立て看板を使って大津祭の写真やQRコードを添付して知ってもらうということも予定していたが実施できなかったもので、今後は他の広報手段に必要な時間も考えて余裕をもって行動できるように心がけたい。

〈報告者：吉岡 秀太〉

事業名	「防災・減災そなえパークの日」関連企画（継続7年目）
日時	展示期間 2021年2月20日（土）～3月15日（月）
場所	滋賀県営都市公園びわこ文化公園及び公園管理事務所 及び 瀬田公園体育館
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
企画メンバー（学生スタッフ）	木下 綾華(社会4) 高岡 宏幸(社会4) 南 佳奈(社会4) 渡中 新太郎(農学4) 大和 虹輝(農学3) 井尻 由梨香(社会2) 林 大誠(社会2)

1. 経緯・目的

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により「防災・減災そなえパークの日」は開催されなかった。しかし、継続してきた企画やつながりをつくってきた団体（公園）との関係を途絶えさせたくないと考えた。加えて、地域の人々にも防災知識を学んでもらう機会を提供したいという思いから、びわこ文化公園で防災に関する展示を行うこととした。

近年、日本の各地では、地震、台風や豪雨など、災害が多く発生している。自然災害は他人事ではなく自分の身に起こり得る事として、防災意識を少しでも高めてもらいたいと考えている。今回は、地震災害の防災・減災に関する内容の展示物を作成し、公園来場者に丁寧に説明

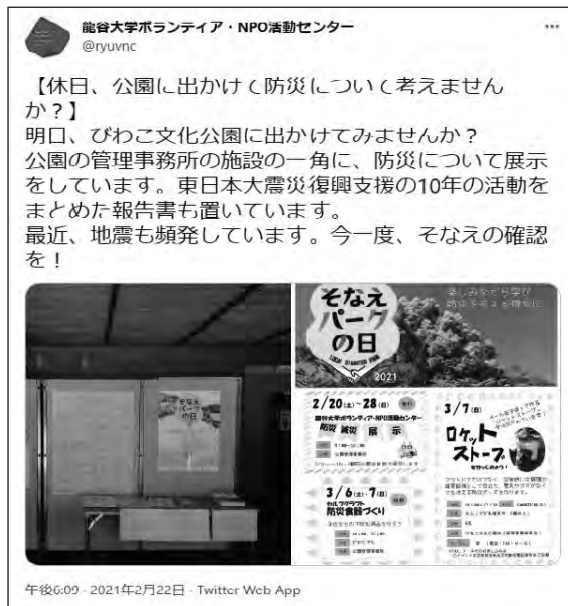
することで、学生スタッフ自身の学びや地域の人々への啓発の機会とする。

2. 概要

- (1) びわこ文化公園・瀬田体育館との事前打ち合わせ
 - ① 2020年12月27日（日）
 - ② 2021年1月28日（木）
 - ③ 2021年2月3日（水）
- (2) イベント広報

Twitter 投稿（3回）
- (3) 展示
 - ・近年頻発する災害について
 - ・防災グッズについて
 - ・避難所について

- ・来場者アンケート実施
(Google フォームを利用)



ティングはオンライン、展示物は担当を決めて各自で制作することになった。その結果、進行がうまくいかず、まとまりがなかった。全体で共有する機会を増やすべきだった。

- ・今回、びわこ文化公園での展示準備をすすめているタイミングで、瀬田公園体育館でも展示をしないかというお話をいただいた。新たなつながりが生まれたことはうれしかった。今後もこのつながりを大切にしていきたい。

〈報告者：大和 虹輝〉

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・近くの避難所がどこにあるのか知らなかった為、ハザードマップに興味を惹かれた。
- ・防災に関して日々の生活で忘れがちなことが沢山あったので、考える良い機会になった。
- ・東日本大震災の後、復興がどの程度進んでいるかの展示があれば良いと思った。
- ・文字が多いなと感じたので写真や表があった方が見やすいと思った。

[アンケート回答人数9人(目標30人)]

4. 学んだこと・今後の課題

- ・展示物作成に取り掛かるのが遅かったこと、ミーティング開催日を固定しなかったこと等、計画的に進めることができなかった。
- ・アンケートの目標人数である30人に届かず、9人という結果であった。展示の広報、アンケートをしていることの周知、どちらも十分でなかった。広報回数や手段を増やす、展示説明の日程を増やす、アンケート実施についての広報も実施するなど、今後改善していきたい。
- ・企画メンバーの通学日程が合わず、対面でのミーティングや集まって展示物を制作することが難しかった。そのため、ミー

事業名	サークル活動・ボランティア活動情報交換会（オンライン Zoom）	
第1回	深草：2020年9月2日（水） 12:30～13:00 2団体2名	瀬田：2020年9月2日（水） 12:50～13:20 2団体5名
第2回（合同実施）	2020年11月19日（木）（12:40～13:10）5団体 9名	
第3回（合同実施）	2021年1月13日（水）（12:40～13:10）2団体10名	
登録団体 参加サークル	京まちや七彩コミュニティ／深草ジャズ研究会 情報教育ボランティアサークル Hoge／手話サークル Do Activity Yourself／うみいろ	
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター	

1. 経緯・目的

本学学生のボランティア促進の一環として、学内サークルへの地域活動のサポートや関係構築、センターの認知度向上を目指し、定期的に互いの情報交換やボランティアに関する情報提供の場を設けてきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、様々なサークルがボランティア活動のみならず従来の活動ができない状況にいたり、オンライン新歓で新入生が入ってきたものの、活動の場が提供できないなどの課題を抱えているケースが多く見受けられます。

そこで、参加サークルの現状を聞き取り、意見交換を通して今後の活動支援やボランティア活動促進に繋げることを目指し、情報交換会をオンラインで行いました。

2. 概要

（1）サークル登録制度

学内のサークルのうち、ボランティア活動への参加、情報提供を希望するサークルがセンターに登録することで、以下の対応を行いました。

- ・ボランティア活動に役立つ様々な情報を優先的に提供する。
- ・サークルが Twitter アカウントを保有している場合、センターの公式 Twitter でフォローする。
- ・サークルのメンバー募集チラシなどをセンターで配架する。

（2）サークル活動・ボランティア活動情報交換会

Zoom を使ってオンライン情報交換会を実施しました。例年はサークル同士のネットワークづくりやサークル活動に役立つ情報提供を行うところ、今年度は特にサークル活動が思うようにいかなかったことから、新歓活動に関する相談や情報交換がメインとなりました。

2020年度 ボランティア・NPO活動センター
サークル活動・ボランティア活動 情報交換会
サークル×ボランティア＝挑戦

○「ボランティアなんて関係ない」と思っているサークルの皆さん、自分たちの特技や強み、普段の活動を活かしてボランティアをしてみませんか？活動の幅が広がりますよ。
○ボランティア系サークルの皆さんにも、活動に役立つ・活かせるおトク情報を紹介します。

実施方法	zoomによるオンライン開催
開催日	第1回 2020年9月2日（水）
時間	深草 12:30～13:00 瀬田 12:50～13:20
申込方法	Google フォーム https://forms.gle/1XBEUJbJZY0Ek8RUA またはメール ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp
申込締切	開催日前日 9/1（火）12:00まで

メール申込の場合、申請を「第1回サークル情報交換会参加申込」とし、1枚につき1サークル。①オンライン参加サークル名、②参加人数、③氏名、④所属系、⑤メールアドレス、⑥所属サークル名を記入してください。

センターでは、サークルのみなさんを応援する「サークル登録制度」を設けています。おススメポイントや登録方法などは、情報交換会の中で説明します。関心のあるサークルのみなさん、参加申し込みをお待ちしています。

申込・問合せ 京大ボランティア・NPO活動センター
深草 TEL 075-645-2047 FAX 075-635-2054
瀬田 TEL 077-344-7252 FAX 077-344-7253
Mail ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp
URL <http://www.ryukoku.ac.jp/ryuvnc/>

3. 参加者の声・得られた効果など

○参加サークルより

- ・他のサークルがどのような新歓活動をしているのかがわかった。
- ・Zoom だったので、どこからでも参加できた。
- ・学生スタッフのみなさんが話しやすい雰囲気を作ってくれていたもので、緊張していましたが、話しやすかったです。

○情報交換会をサポートした学生スタッフより

- ・参加してくれたサークルへのボランティア紹介に繋がっていない。
- ・個人的に所属しているサークルの学生が、「参加のメリットが見えづらい」と話していた。

- ・まずはボランティア系のサークルとつながることからスタートしてはどうか。
- ・同じサークルばかりの参加で、広がらない。実施回数が少ない。
- ・色んなサークルが一堂に会するよりも、1サークルずつの方がその団体に即した話ができるのではないか。
- ・やるなら、たくさんのサークルに参加してもらってこそ意味があるので、参加を増やす、促すための工夫が必要。

4. コーディネーター所感

2009年度に開始し2019年度まで対面で行ってきたこの活動ですが、「本来の目的を果たせていない」と感じる学生スタッフが多いことが、今回の学生スタッフの意見から見えてきました。今後はやり方を工夫して、少しずつでも実りある取り組みにしたいと考えています。

また、従来はサークルへのボランティア活動支援として、地域の団体からのボランティア活動やボランティア出演の依頼を繋げることに取り組んでいましたが、今後は自分たちの活動をボランティアに活かしたいサークルに対し、オンラインなどでも対応できる活動先を開拓していくなど、新たなコーディネーターが求められると感じています。

〈報告者：上手 礼子
(瀬田キャンパスコーディネーター)〉